



箕輪進修高校 進路指導室

2012. 1. 19

No. 77



先を読む

毎年正月になると様々なメディアで「今年の予測」が扱われています。皆さんの多くは「政治経済等」の話になると、極力そうしたものを遠ざけているでしょう。しかし皆さんは年齢的にも**これから世の中がどう動いていくのかに関心を持たなくてはならない時期に来ています**。特に就職する人は世の中の動きは直接皆さんの就職する会社に響いてきますし、ひいては皆さんの給料等生活に関わってくるのです。

私たち人間は自分だけで生きていくことは出来ません。常に世の中の動きに左右され続けています。まして現在のようなグローバル経済の中では、外国で起きた事件でも大なり小なり私たちの生活にすぐ響いてくる時代です。ある程度自ら先を読みながら生活していくことを心がけないと、大海原の波上の小舟のように、周囲に振り回されることになってしまいます。**自ら先を読み、どう生きていくことがよいかを考えることは必要**です。もちろん先は簡単に読めるものではありません。自分の読んだ通りに動かないことの方が多いかもしれません。しかし色々な情報を得ながら自分なりに世の中の動きを読もうとすることは大切なことです。より正確に先を読もうとするならば色々なニュースを聞いたり、より多くの識者の意見を聞くことが大切です。そのためにもテレビで**ニュースを聞いたり新聞を読むことが大切**です。皆さんも今まで以上に世の中の動きに関心を持ち、先を読むことを心がけて欲しいものです。

デジタル化と日本の工業



最近日本の工業界が苦戦をしています。一番は急激な円高が直接の原因でしょうが、実はデジタル化とも大きく関わっています。以前のアナログの時代は熟練技術者の勘に負うところが大きく秘密の保持が出来ましたが、**デジタルの時代は一度出来上がったものは誰でも同じものが出来てしまう**のです。

最先端を走っている日本の電気関係の企業では最先端の技術をワンチップ（モジュール）の中に詰め込んでいます。それを組み合わせて新しい製品を作るわけですが、中国等の企業もその部品を日本から購入し組み立てれば日本企業と大差のないものができあがってしまいます。例えば液晶テレビも個々のモジュールを買ってきて、しかも製造機も日本等が開発した製造技術のノウハウの詰まった装置を使えば日本と遜色のないものが出来てしまうのです。

機械分野でも同様です。例えば金型技術は、かつては日本の製造現場で長年積み上げたノウハウが強みとなり他国ではまねが出来ませんでした。ところがCAD・CAMにより、図面を三次元CADで描けば金型の製造時のノウハウが詰まったCAMソフトで工作機械のプログラムが自動的に出来てしまうのです。それをMC等の工作機械にかけると日本と遜色のないものが出来るのです。

熟練技術者の知恵が機械に教え込まれ、その機械さえ使えば日本と同じものが出来てしまうのです。これはデジタル技術の発展によるものです。これでは日本の強みが全く生かせなくなってしまうのです。そうしたモジュールや機械を売らなければよいのではと思うかもしれませんが、それらを作っている企業からすれば、売れるものは売りたいのです。

日本はさらに上のものを作り続けなくては、世界的競争に勝てないのです。